

平成 29 年度第 2 回浜松市創造都市推進会議 議事録

日 時：平成 30 年 3 月 20 日（火）午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分

場 所：浜松市役所本館 8 階 第 4 委員会室

出席者：伊豆裕一会長、寺田聖子副会長、杵屋英夫委員、桧森隆一委員、和久田明弘委員、佐藤洋一委員

欠席者：谷川真美監事、山名裕監事（代理出席：佐藤宏明国際課長）

オブザーバー：鈴木三男創造都市推進担当課長

報道関係：3 人（中日新聞社×1、静岡新聞社×1、テレビ静岡×1）

傍聴者：0 人

事務局：影山元紀主幹、松本芙蓉明主任（以上、創造都市・文化振興課創造都市企画調整グループ）、森下和之副主幹、新山隆平主任、小田実佳（以上、創造都市事業推進グループ）

1 開会

（事務局 松本）

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、浜松市創造都市推進会議の平成 29 年度第 2 回を始めさせていただきます。

本日は、谷川委員と山名委員が所要により欠席となっておりますが、山名委員の代理として、佐藤国際課長に出席していただいております。また、過半数を超える委員にご参加いただいておりますので、会議が成立していることを報告させていただきます。

本日、机上に配布しました会議資料について確認いたします。

（※資料 1～4、参考資料について配布確認）

以上でございます。不足はありませんでしょうか。それでは、ここからの進行は伊豆会長にお願いいたします。

2 議事

審議事項 1 平成 30 年度浜松市創造都市推進会議事業計画及び予算(案)について

（伊豆会長）

それでは、議事にはいります。まず、審議事項(1)「平成 30 年度浜松市創造都市推進会議事業計画及び予算（案）について」、事務局から説明をお願いします。

（事務局 松本）

（資料 1「平成 30 年度浜松市創造都市推進会議事業計画及び予算（案）」に基づき説明）

（伊豆会長）

ありがとうございました。ただいま説明のありました事業計画及び予算（案）について、何かご意見やご質問はありますか。

（桧森委員）

事業計画（案）②の調査研究事業について、国内外の創造都市ネットワークでの連携促進のなかで、創造都市ネットワーク日本（CCNJ）を通じた創造都市施策の事例研究とありますが、日本にある創造都市の間では何か、協議会のようなものがあるのでしょうか。

（事務局 影山）

まさに、創造都市ネットワーク日本という組織がございます。現在、100 前後の自治体や文化財団などの団体が加盟している組織で、文化庁の発案で始まったものです。来年度については、その代表幹事都市を浜松市が務めることになっています。

こうした、ネットワークのなかでなんらかの取り組みができないかということで、調査研究事業のなかで想定しています。

（桧森委員）

ユネスコ創造都市に加盟する都市だけの何か集まりはありますか。

（事務局 影山）

基本的にはございません。

（和久田委員）

国内外の創造都市ネットワークでの連携促進ということですが、音楽分野での連携ということですか。

（事務局 影山）

もちろん、それが第一になりますが、それに関わらず例えば音楽とデザインで何か一緒にできないかということも、可能性としては十分に考えています。ユネスコ音楽都市はままつ推進事業ということで、実行委員会を設置して、今年度にサウンドデザインフェスティバルを実施しました。そこには、名古屋市、神戸市からも出展をいただいておりますが、それぞれユネスコ創造都市ネットワークにデザイン分野で加盟しています。このように、分野を超えた連携も可能性として考えております。

（和久田委員）

浜松版アーツカウンシル、サウンドデザインなどに関する調査研究について、もう少し具体的なことがあれば教えてください。

（事務局 影山）

浜松版アーツカウンシルについては、まだ走りだしたところです。そのため、より良いかたちを目指すうえで調査研究を考えています。

サウンドデザインについては、ユネスコ音楽都市はままつ推進事業で、世界創造都市フォーラム、世界音楽の祭典、サウンドデザインフェスティバルの 3 か年事業を実施しました。先日、実行委員会での会議がありましたが、そのなかでサウンドデザインという考え方は、非常に可能性が高いため、今後も仕組みや考え方、かたちなどを継続していくこと

で力になっていくのではないかと、という意見をいただきました。3か年の取り組みを次に継続していくためにも、何かできないかということで、そのような調査研究を進めさせていただければと考えています。

(空屋委員)

組織的な質問になりますが、委員の任期が何年なのか、また今年度で任期が終了するのであれば、決算報告の時期などスケジュール的なことを教えてください。

(事務局 影山)

今回、委員に就任していただいている方の任期は、今年度末で一旦終了することになります。新年度に入りましたら、改めて委員選出ということで、各団体に依頼させていただきます。第1回の会議については、5月から6月にかけて実施したいと考えています。そのなかで、新たな委員の方にお集まりいただいて、決算の報告をさせていただくということを考えております。

(伊豆会長)

調査研究事業のネットワークに未加盟の創造都市との連携促進について、何か具体的なものはありますか。

(事務局 影山)

ネットワークに加盟していない都市でも、何か魅力的なものをもっているのであれば、連携していきたいということで記載しておりますので、特段に具体的なものがあるわけはありません。

(伊豆会長)

静岡県内の市町村のなかで、浜松市よりも規模が小さい都市で、このような活動まで手が回らない都市もあると思いますので、そのような都市に声をかけてみてはどうかと思いました。

(寺田副会長)

創造都市ネットワーク日本（CCNJ）の代表幹事都市の任期は何年でしたか。

(事務局 影山)

2年間になります。

(寺田副会長)

代表幹事都市の選出は順番になりますが、これを担えるということは、浜松市が積み重ねてきた実績を踏まえてということだと思います。浜松市で代表幹事都市を担うということは、大きな意味があると考えてよろしいですか。

(事務局 影山)

国内の代表的な創造都市として認識されるのではないかと考えています。

(伊豆会長)

ありがとうございました。他に、特段の意見がございませんようでしたら、この事業計画及び予算（案）を承認してよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは、この事業計画及び予算（案）を承認いたします。

審議事項 2 アクションプログラムの一部改定について

(伊豆会長)

次に、審議事項（2）アクションプログラムの一部改定について、事務局から説明をお願いします。

(事務局 松本)

(資料 2 「「創造都市・浜松」推進アクションプログラムの一部改定について」に基づき説明)

(伊豆会長)

ありがとうございました。ただいま説明のありました「アクションプログラムの一部改定について」、何かご意見やご質問はありますか。

(桧森委員)

平成 33 年度から新しいアクションプログラムがスタートするということによろしいですか。

(事務局 影山)

今のところ事務局としては、そのように考えています。しかし、文化振興ビジョンの議論のなかで、個別計画としてのアクションプログラムが適正なのかということも含めて、文化振興ビジョンのなかで考えていくことになると思います。

(桧森委員)

そうなりますと、期間もまだ決まっていないということによろしいですか。

(事務局 影山)

文化振興ビジョンを踏まえたくらんで、次のものに繋げていきたいと考えています。

(伊豆会長)

ありがとうございました。他に、特段の意見がございませんようでしたら、アクションプログラムについて、平成 30 年度に一部改定を行うとのことで、承認してよろしいでしょ

うか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは、アクションプログラムの一部改定を行うとのことで、来年度に議論をしていきたいと思えます。

審議事項3 浜松版アーツカウンシルの設置について

(伊豆会長)

続いて、(3)審議事項「浜松版アーツカウンシルの設置について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局 影山)

(資料3「浜松版アーツカウンシル事業について」に基づき説明)

(伊豆会長)

ありがとうございました。ただいま説明のありました「浜松版アーツカウンシルの設置について」、何かご意見やご質問はありますか。

(桧森委員)

浜松アーツ&クリエイションの&を入れたことについてですが、個人的には良いのではないかと思います。アーツカウンシルの議論のなかで、アーツとは何かということで、なかなか議論が進まないこともあります。創造的なものも扱っていくということで、非常に浜松らしくて良いと思いました。

(伊豆会長)

ロゴの運用ルールなどがありますか。例えば、この資料はカラー印刷になっていますが、白黒印刷の場合は、青と緑が同じような色に見えてしまうと思います。また、和文と英文が必ずセットで、同じ幅で使われるなどの決まりはありますか。

(事務局 影山)

そのあたりのルールはまだ策定しておりませんので、使い方のルールをきちんと策定していきたいと思えます。

(伊豆会長)

デザインに関わるものとしてアドバイスをさせていただきますと、和文と英文をきちんと同じ幅で使用するというとは、一般的にはしませんので、運用のルールも含めてしっかり策定したほうが良いと思えます。

(空屋委員)

事業を進めるにあたって、浜松市からアーツカウンシルに予算方針となっていますが、どのくらいの規模の予算なのでしょう。それと、アーツカウンシルに関わるスタッフの

人数はどのくらいの規模なのでしょうか。

(事務局 影山)

平成 30 年度浜松版アーツカウンシル事業の予算案としてお示しさせている金額が、29,811,000 円になります。組織のスタッフとしましては、プログラムディレクターが 1 名、プログラムオフィサーが 2 名、事務補助が 1 名を予算のなかでは考えています。その他に、浜松市文化振興財団のプロパー職員のサポートも受けながら、事業を実施していくこととなります。

(桧森委員)

支援に対する助成の予算も含まれていますか。

(事務局 影山)

支援のターゲットや手法、財源の規模などをこれから検討していくこととなりますので、助成の予算は含まれておりません。

(柰屋委員)

予算 29,811,000 円の内訳については、人件費がいくらなのか、事業費がいくらなのか、大まかでよいので教えてください。

(事務局 影山)

人件費としましては、約 20,000,000 円で、残りが事業費になります。

(伊豆会長)

プログラムオフィサーの人選は既に終わっていますか。

(事務局 影山)

1 名は確定しております。もう 1 名についても、早急に確保していきたいと考えています。

(柰屋委員)

プログラムオフィサーとはどのような役割を担いますか。

(事務局 影山)

プログラムディレクターを補佐して、手足となって動いていくことがプログラムオフィサーの役割になります。

(和久田委員)

浜松市文化振興財団のなかに、浜松版アーツカウンシルを設置するとありますが、立ち位置が非常に分かりにくいかなと思います。つまり、責任をどちらに向けるかということです。浜松版アーツカウンシルは市に対して政策提案・事業提案をして、そのうえで、市

は創造都市推進会議に報告し、評価を受けることとなりますので、そのところははっきりさせたいと思いますが、そのようなことでよろしいでしょうか。

(事務局 影山)

アーツカウンシル東京もそうですが、アーツコミッション横浜も、財団内の組織としてアーツカウンシルを設置しています。他都市の事例をみましても、財団内の組織として設置するというのが一般的な流れだと思います。

一方、アーツカウンシルとしての評価につきましては、それで良いのかという意見は以前に桧森委員からいただきました。浜松版アーツカウンシルについては、市の方針に従って設置しておりますので、市が責任を負い、市は創造都市推進会議に評価をいただくということになります。まずは、資料の図のかたちで進めさせていただいて、必要に応じてかたちを変えていくということも想定しています。

(伊豆会長)

先ほど評価の部分で、第三者評価ということで「佐々木雅幸氏」の紹介がありましたが、この方はアーツカウンシルに関する部分の評価ということでしょうか。

(事務局 影山)

今のところはそうのように考えています。佐々木先生のご意見も伺いつつ、皆様に対しても佐々木先生の関わり方をご報告させていただきたいと思います。

(伊豆会長)

ちなみに、佐々木先生とはどのような方か、ご説明いただいてもよろしいですか。

(事務局 影山)

創造都市論の第一人者で、現在は同志社大学の特別客員教授を務めております。浜松市が、ユネスコ創造都市ネットワークに加盟する際には、多大なご協力をいただいていることもありまして、本市の創造都市アドバイザーに就任いただいております。

(伊豆会長)

私も著書を読んだことがあります。グローバルな視点ということでは著名な方ですが、アーツという点では本当の専門分野ではないと思いました。

(桧森委員)

佐々木先生の評価ということで、アーツカウンシルの部分だけということではもったいないと思いました。浜松市の創造都市施策の評価も含めて、お願いの仕方を考えてはどうかと思います。

また、プログラムディレクターの菱沼さんにつきまして、先日にお会いしましたが、とても良い方だと思いました。ただし、どちらかというと音楽分野に強い方になるため、視覚芸術的な分野をカバーできる、プログラムオフィサーが必要になるかなと思いました。

実務的には、浜松版アーツカウンシルの仕事を回すことに問題はないと思いますが、分野的に足りない分野はあると思いますので、そこをカバーできる人選をしてはどうかと思います。

(伊豆会長)

まさに、佐々木先生については、事業評価というよりも、政策評価という面で関わってもらってはどうかと思いました。それでは、引き続き浜松版アーツカウンシルについて、事務局で進めてください。

報告事項 1 浜松版アーツカウンシル PR セミナーについて

(伊豆会長)

それでは、最後に報告事項 (1)「浜松版アーツカウンシル PR セミナーについて」、事務局から報告をお願いします。

(事務局 影山)

(資料 4「浜松版アーツカウンシル PR セミナーについて」、参考資料「「地域とアート」チラシ」に基づき報告)

(伊豆会長)

ありがとうございました。ただいまの報告についてご質問・意見がありましたら、お願いします。

(寺田副会長)

伊豆先生は、お見えになっていただきましたね。

(伊豆会長)

そうですね。私の感想を申し上げますと、個人的にはおもしろかったですが、事例発表のなかで、ボランティア的な活動や福祉的な活動も含めた団体の発表があって、はまホールで活動しているような市民の音楽活動とは異なっており、両極端の話があったように思いました。そのような情報収集もしながら、一般の市民活動をお手伝いしていければと思います。

(寺田副会長)

創造都市推進会議の事業として、このセミナーを挑戦させていただきました。浜松市の状況を知っていかなければならないということで、そのなかで菱沼さんにも参加いただきました。これから、私たちが出て行って情報収集をしていくことも必要になると思いますので、これからも挑戦はしていきたいと思います。

(桧森委員)

このなかで、みんなのはままつ創造プロジェクトの発表もされたと思いますが、その反

応はいかがでしたか。

(事務局 影山)

みんなのはままつ創造プロジェクトの採択団体としては、「時をともしまのひかり実行委員会」と「ZING」の2団体に発表していただきました。時をともしまのひかり実行委員会は、地域のコミュニティを再生するという目的のもと、自分たちの管理しているハウスを拠点として活動しているということでした。その活動については、非常に高い評価を得ていました。一方、ZINGについては、誰もが小雑誌をつくれる場を開いたという発表をしていました。シンポジウムに登壇した加藤種男さんからは、ZINGの活動内容自体は良いが、その活動が何を目的としているのかが伝わらなかった、それをはっきりすべきだという指摘を受けていました。

(桧森委員)

みんなのはままつ創造プロジェクトそのものについて、浜松の文化政策として何か反応はありましたか。

(事務局 影山)

この場では議論にあがりませんでした。

(伊豆会長)

静岡県の中でグッドデザイン静岡という事業の審査委員長をしばらく務めていますが、そのなかで農家の女性が縁側を月に1回開放して、東京などから子どもたちが遊びにやってくるという地域活性化プロジェクトがありますが、地域経済的なプロジェクトとして、おもしろいと感じていました。このようなプロジェクトも、市全体を元気にすると思いますので、非常に良いと思いました。ZINGに対するコメントでは、加藤種男さんから非常に厳しいものがありましたね。

(事務局 影山)

セミナーの終わった後に、ZINGのメンバーと話す機会がありました。みんなのはままつ創造プロジェクトにおいて、我々も審査委員の皆様からのコメントを伝えていますが、職員から話を聞くよりも、このような場で意見をいただくことが、刺激を受けたようです。また、お互いの活動を知ること、相乗効果を生む可能性を秘めていると感じました。

(伊豆会長)

セミナーに参加した団体にとっては、有意義な時間だったと思いました。それでは、本日の議事は以上になります。

3 その他

(伊豆会長)

そのほか事務局から連絡事項等がありますか

(事務局 松本)

年度末にあたり、浜松市 創造都市・文化振興課 創造都市推進担当課長の鈴木から挨拶を申し上げます。

(鈴木三男創造都市推進担当課長)

今期の会議は本日が最終となります。2年間にわたり、闊達に意見交換していただきまして、ありがとうございました。来期についても引き続き創造都市の推進にご協力をいただきたいと思います。新年度に入ってから改めて、皆様の所属団体に委員選出の依頼をいたしますので、よろしくお願い申し上げます。

4 閉会

(事務局 松本)

本日は会議にご参加いただきありがとうございました。これをもちまして、平成29年度第2回会議を終了いたします。ありがとうございました。